

米国 36.7万件に急増も特殊要因による押し上げ (5月13日までの週の新規失業保険申請件数)

06年5月18日(木)

～新規失業保険申請件数の増加基調は32万件と雇用の堅調持続を示唆～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

36.7万件と市場 予想を上回った

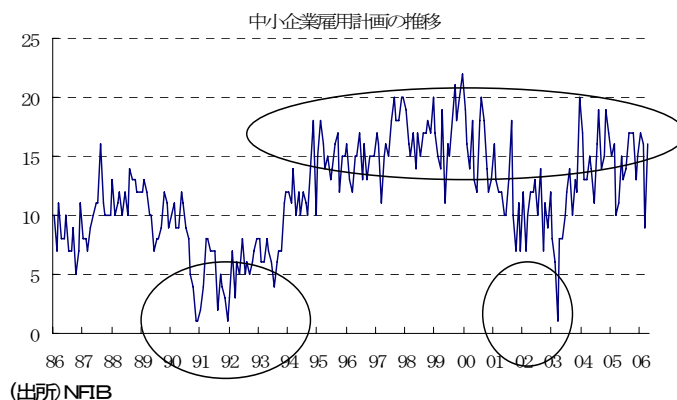
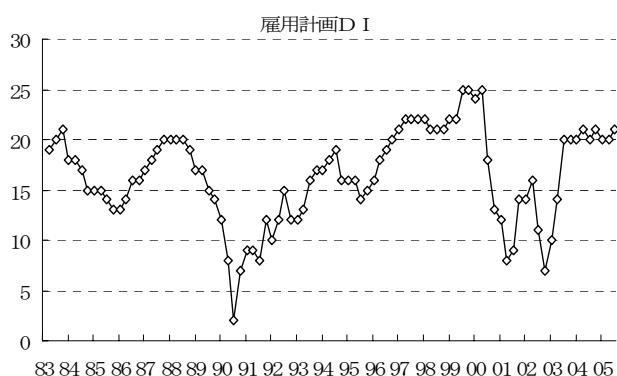
06年5月13日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、36.7万件と市場予想の31.9万件を上回り前週の32.5万件から4.2万件増加した。しかし、プエルトリコでの政府活動停止によって押し上げられており、プエルトリコの申請件数である4.6万件を除くと32.1万件と前週から小幅減少している。また、トレンドを示す4週間移動平均は、33.2万件と前週の31.7万件から増加したが、特殊要因を除いたベースでは32.2件と小幅増加にとどまっている。以上のことから、景気の堅調が持続するなか、安定的な雇用の拡大が続いていることが示された。

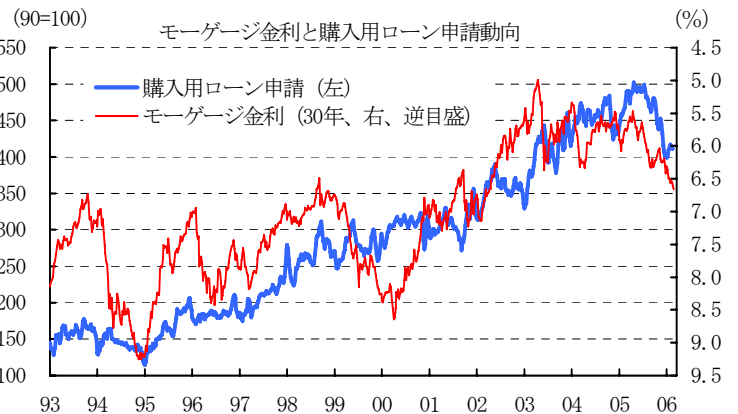
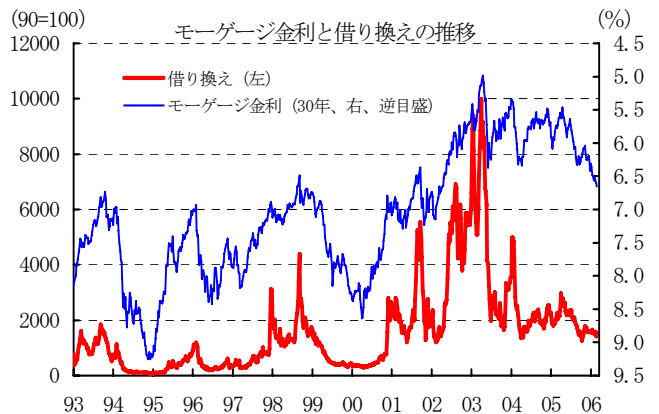
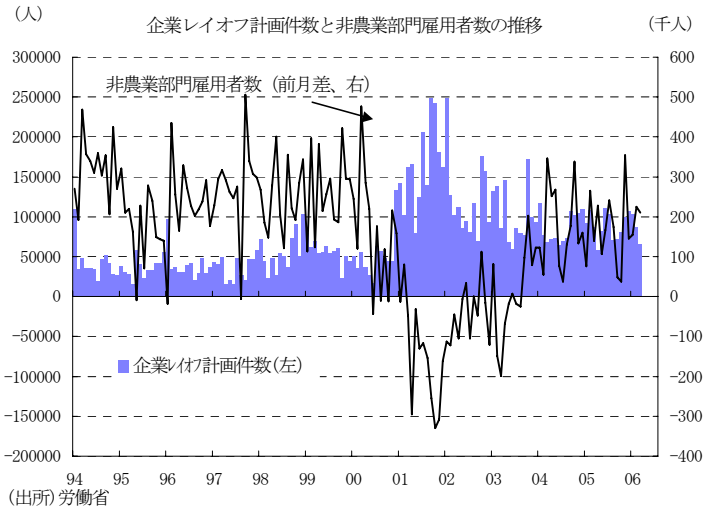
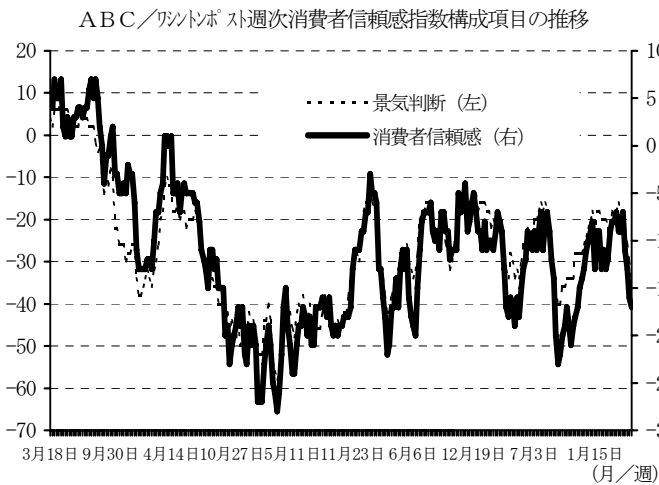
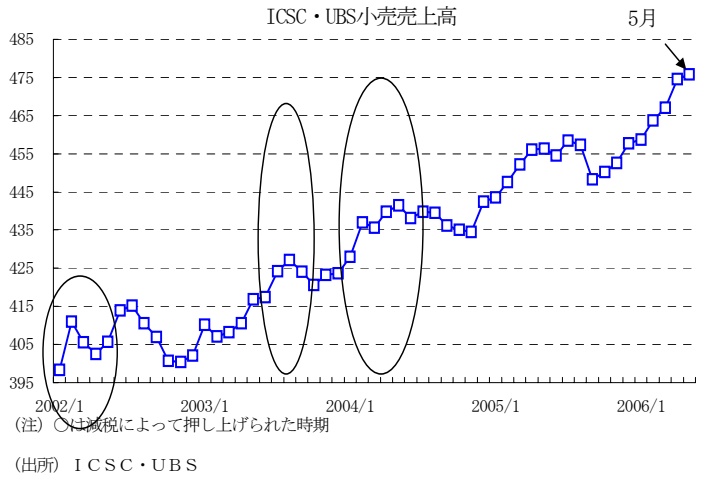
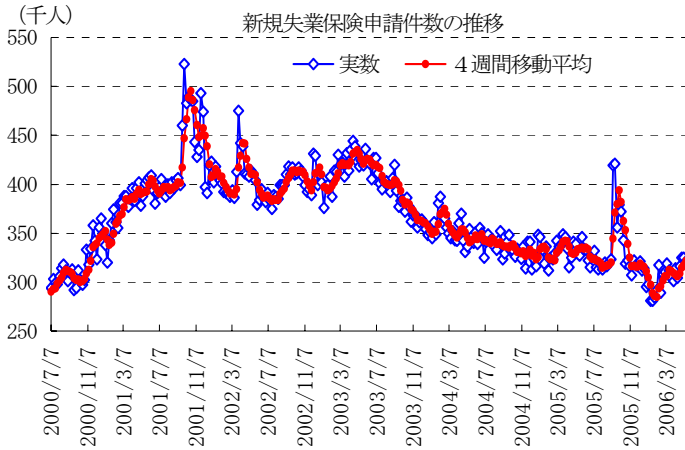
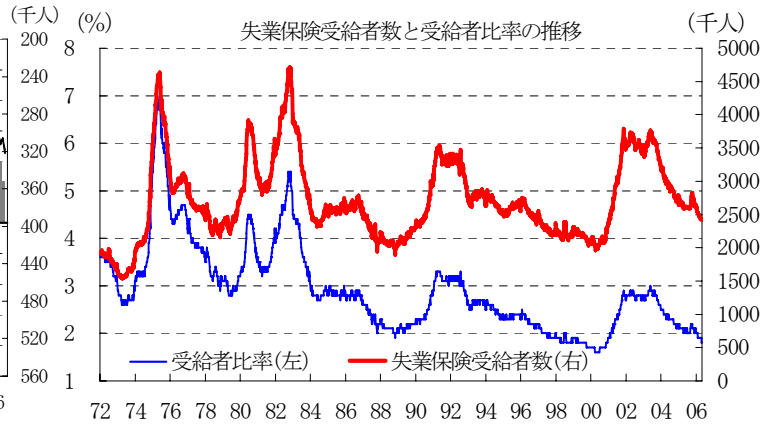
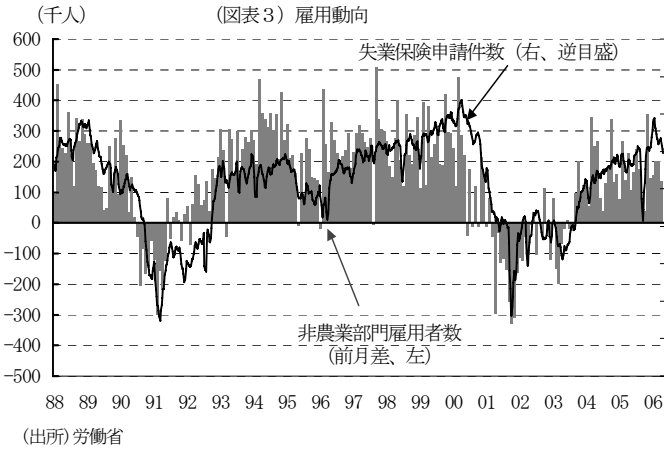
5月の雇用統計調査週である5月13日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み)が4月の雇用統計調査週から増加したが、非農業部門雇用者数は4月に拡大ペースが大幅に鈍化したことから5月には前月差+190千人程度が予想され、雇用の堅調持続が確認されよう。

5月6日に終わった週の失業保険受給者数は238.9万人と前週から増加したが、01年1月以来の水準で推移している。また、5月6日に終わった週の失業保険受給者比率が1.8%と4月から低下していることから、5月の失業率は4.7%前後にとどまる可能性が高い。

雇用は現在の拡大 トレンドを維持

雇用を取巻く環境をみると、国際競争の激化や投入コストの上昇が続く中、一部の企業はコスト削減のため、レイオフ、採用抑制を続けると予想される。その一方で、雇用に先行する景気が2003年4～6月期から2006年1～3月期まで平均して潜在成長率を上回るペースで拡大しているなか、2006年4～6月期の新規雇用計画調査や経営者団体の景況調査における雇用計画などで採用拡大が示唆されていることから、多くの大企業で採用意欲が強まっていると判断される。加えて、雇用の大部分を占める中小企業の景況感が4月に改善し、雇用計画は上昇していることから、雇用者数は2006年7～9月期にかけて前期比+0.3%～+0.5%のトレンドを維持すると予想される。





(出所) MBA

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。